

種子・球根の消毒剤

ホームイ®水和剤



広範囲の
種子伝染性病害の
防除に有効
です。

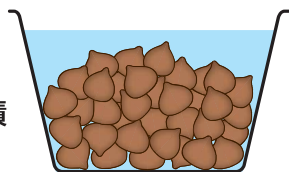
種子、球根の
浸漬・粉衣など
いろいろな消毒方法が
できます。

きゅうり
つる割病

チューリップ
球根腐敗病

球根浸漬の場合 (チューリップ等)

30分間
球根浸漬



※消毒後の球根は水洗せずに植付るか、
風乾して貯蔵する。

球根粉衣の場合 (にんにく、花き類)

球根
準備

袋づめ

ホームイ水和剤処理

よくまぶす

植付
または
貯蔵

※にんにくは、
あらかじめ
湿らせてお
きます。

↑
ホームイ水和剤
種球または球根重量の1.0%
例) 10kgの球根でホームイ水和剤
100g1袋

丈夫な袋や種子処理機など

※処理後水洗
いはしない。



日本曹達株式会社

種子・球根の消毒剤

ホームイ水和剤

■有効成分：チウラム30.0%
チオファネートメチル50.0%
殺菌剤分類 **M3.1**
■人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

◆ 適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 または使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	チオファネートメチルを含む 農薬の総使用回数	使用方法	
稲	イネシンガレセンチュウ	乾燥種もみ重量の1.0%	浸種前	1 回	1 回	3 回以内 〔種子への処理は1 回以内〕	種子粉衣（湿粉衣）	
	ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病 苗立枯病	乾燥種もみ重量の0.5～1.0%					10分間種子浸漬	
		20～30倍					24～48時間種子浸漬	
		200倍					6～24時間種子浸漬	
	ばか苗病 いもち病	400倍					24～48時間種子浸漬	
小 麦	斑葉病 なまぐさ黒穂病	種子重量の0.5～1.0%	は種前			4回以内 〔種子への処理は1 回以内、散布 及び無人ヘリ散布は合計3 回 以内、出穂期以降は2 回以内〕	種子粉衣	
200倍		6～24時間種子浸漬						
麦 類 (小麦を除く)		種子重量の0.5～1.0%					3 回以内 〔種子への処理は1 回以内、 出穂期以降は1 回以内〕	種子粉衣
		200倍						6～24時間種子浸漬
はとむぎ	葉枯病 黒穂病	乾燥種子重量の0.5～1.0%				1 回	種子粉衣（湿粉衣）	
		200倍					72時間種子浸漬	
だいず	紫斑病	種子重量の0.5%				4回以内〔種子への処理は1 回以内〕	種子粉衣	
野菜類 (豆類（未成熟）を除く)	フザリウム・リゾクトニア菌 による病害（つる割病等）	種子重量の0.5～1.0%				1 回	種子処理機による 種子粉衣	
豆類（種実） 豆類（未成熟）	フザリウム・リゾクトニア菌 による病害	種子重量の0.5%						
きゅうり	つる割病 苗立枯病	種子重量の0.5～1.0%					6回以内 〔種子への処理は1 回以内、 は種後は5 回以内〕	種子粉衣
		200倍						30～60分間種子浸漬
すいかの接木用の ゆうがお	つる割病	種子重量の0.5～1.0%	種子粉衣					
		200倍	30～60分間種子浸漬					
トマト	萎凋病		20～30分間種子浸漬					
にんにく	黒腐菌核病 イモグサレセンチュウ	種球重量の1.0%	植付前	1 回	種球粉衣（湿粉衣）			
花き類	フザリウム・リゾクトニア菌 による病害（苗立枯病等）	種子重量の1.0%	は種前	5 回以内	種子処理機による 種子粉衣			
ストック、アスター、けいとう べにばな、シクラメン まつ、すぎ、ひのき	苗立枯病	200倍			30分間種子浸漬			
チューリップ、すいせん グラジオラス、ゆり フリージア	球根腐敗病	種子重量の1.0%	植付前 又は 貯蔵前		種子粉衣			
		200倍			30分間球根浸漬			
		球根重量の1.0%			球根粉衣			

⚠ 効果・薬害などの注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 薬液の調製はまず少量の水に溶かし、次に所定量の水を加えよく攪拌してください。
- 薬液の温度はなるべく10℃以下をさけてください。
- 種子粉衣（球根粉衣）の場合は適当な容器の中で、均一に種子（球根）に粉衣するように少量ずつ丁寧にまぶしてください。水稻、はとむぎの場合を除き、湿粉衣はさけてください。
- 低濃度（200～400倍）長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
- 本剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌及びベニシロウム菌による苗立枯病と球根腐敗病に対しては有効ですが、他の病原菌による発病地帯での使用はさけてください。
- 水稻の種子消毒に使用するには次の注意事項を守ってください。
 - (1) 種子消毒は浸種前に行ってください。
 - (2) 種もみと浸漬処理薬液との容量比は1:1とし、種もみはサラン網など、粗目の袋を用い薬液処理時によくゆすってください。
 - (3) 粉衣処理は付着をよくするため、あらかじめ種子を湿らせ（塩水選、水切り後などが適当）、湿粉衣としてください。
 - (4) 薬液処理した種もみは少なくとも数時間は放置して風乾後、水洗せずに浸種してください。
 - (5) 浸種は停滯水中で行ってください。
 - (6) 浸種の浴比は1:2とし、水の交換は原則として行わないでください。ただし、液温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水してください。
 - (7) 粉衣処理及び高濃度浸漬処理（20～30倍）をした種子を育苗箱には種する場合は浸種終了後、浸漬液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてからは種してください。
- 消毒後の球根は水洗せずに植付けるか、風乾して貯蔵してください。
- 種子浸漬処理の場合（水稻の場合を除く）は、浸漬後、水洗せずに風乾してからは種してください。
- はとむぎの種子浸漬処理の場合は乾燥種子を所定時間浸漬したのちに水洗せずに風乾し

- てからは種してください。
- 本剤で処理した種子等は食糧や動物飼料として用いないでください。
 - 本剤を使用したつまみ菜、間引き菜等の幼植物は食用に供しないでください。
 - イネシンガレセンチュウに対しては効果が不十分な場合があるので、イネシンガレセンチュウだけを対象としての使用はさけ、ばか苗病などの同時防除剤として湿粉衣してください。（使用量は乾燥もみ重量の1%）
 - 本剤を使用した場合には、ペノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種もみへの処理及び塗布処理は除きます。
 - 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 薬液調製時及び使用の際は保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。
保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2024年10月現在の登録内容に基づいています。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
お問合せ (03)4212-9655
(平日9～12時、13～17時、土日祝日を除く)



最新の登録内容
SDSはこちら